



2023年度 たんぽぽぐみ



クラスだより

敦賀教会幼稚園

園長 有岡史季

5月 31日 発行

執筆者 園林 依奈

爽やかな風が心地よく感じられる季節になりました。新しいたんぽぽ組の生活がスタートしてから早くも2か月が経ちました。新しい歌をみんなの声を合わせて歌ったり、パドルやレゴブロックにじっくり熱中したり、友達と一緒に虫探しのついでに... いろんなことに一生懸命取り組むことが出来る、素直で可愛い子どもたちです。新しい園生活にも次第に慣れ、喋る声も沢山見せてくれるようになりました。自分から友達に声を掛け遊びに誘うほど友達との関わりも増え、教師にも敬意をもって持つことが出来るようになっていきました。大きくなりました。

沢山の「初めて」に出会い、ドキドキ緊張したり、不安に陥ったりすることもありますが、「自分でできた!」という経験も大切に、日々見守っています。子どもたちと一緒に思いやり遊んで沢山の笑顔を見守る中で、常に心に寄り添い、関わりが出来るようにしたいと思います。

☆ できたことにたくさん ☆



朝の身支度(靴、帽子、水筒)やレゴブロックのルール見直し、会場の準備、着替の時、自分で出来ることに少しずつ増えてきました。また、友達との関わりが良くなり、「自分でやろう!」という思いが育ち始める姿が嬉しく見られるようになっていきました。身の回りの物を自分で片付けたり、準備をしたり、荷物を自分で持ち運ぶことが出来るようになってきました。自信や成長に気がつくたびに、喜んで声をかけ、見守っています。特に迷った時は、自分の荷物と自分で持つことを習慣づけていきました!!

たんぽぽグループ

たんぽぽ組でも夏野菜と育ちました。子どもたちとみんなの話し合いの結果、「きゅうり」に決定しました!! 当初活動に新しく加わった水やりも喜び、いっしょに担いで、「大きくなあれ」「花が咲いたら」と、日々成長の様子を観察し、喜びを共に分かち合っています。みんなの心を育て、大切に育てたいと思います!!



子どもたちの声や意見を大切に聞かれています!!

遊びの中の学びの芽

幼稚園教育要領の中には、次世代を生きる子どもたちの幼児期の終わりに育ちたい10の芽が示されています。これは子どもたちの主体的な学びの中で育ちたいものばかり、強要されるべき到達目標ではありません。学びの芽は、日々の遊びの中で子どもが興味・関心が育ち、その中で、いろいろなことに挑戦していくことだと思います。

- | |
|--|
| << 10の芽 >> ①健康な心と身体
②自己性 ③協同性
④道徳性・規範意識の芽生え
⑤社会生活との関わり ⑥思いやり
の芽生え
⑦自然との関わり・生命尊重
⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
⑨言葉による伝え合い ⑩豊か
な表現 |
|--|

「エピソード: アジダシ探し」 天気が良い日には、積極的に園庭やテラスに出、のびのびと身体を動かして遊ぶことが出来るように計画しています。みんな毎日の遊びの中で子どもたちが夢中になっている姿... それは「アジダシ探し」です! ある日のこと、教師が「こり組のみんなのためにアジダシ探しにいかよう!」と提案し、みんなが関心に行くことに。「土の上を歩いたら」「葉っぱの下に隠れていることもあつた」と嬉しく報告してもらいました。虫籠に入れてじっくり観察したり、手に乗せて動かしたり、アジダシ探しの夢中の子どもたちでした。

このように身近な生き物と関わることで命の尊さに気付かせ、小さな命も大切にしたいという優しい心が育ちました。また果敢と交流の機会を通して憧れの気持ちを抱き、積極的に関わり合える姿が見られました。その中で「言葉による伝え合い」、必要は情報を取り入れる行動する「社会性」、友達と一緒に協力する充実感を味わいながら遊びを進めていく「協同性」を見取ることにできました。四季を感じながらのびのびと遊ぶ中で自然の美しさに気付かせ、更なる感動や発見を待たせ、成長していくように願っています。